

令和2年度安心して暮らせる地域公共交通確保事業（運行効率化） 国保中央病院を拠点とした地域間アクセス向上事業について

●本事業の取り組み

☑目的

広陵元気号及び国保中央病院無料送迎シャトルバスの運行形態を見直し、構成自治体（広陵町、田原本町、川西町及び三宅町）間のアクセス格差の解消と新たなネットワークの構築を検討する

☑国保中央病院アクセスに係る課題と改善の余地

- ・シャトルバスは、田原本駅⇄国保中央病院で、平日往復19便運行
- ・1日の中で、平均利用者（病院職員除く）数1.0人を下回る運行が5割（令和元年11月～令和2年1月実績）
- ・広陵町は、広陵元気号で独自乗り入れ（受付時間に対応するのは2便のみ）
- ・川西町及び三宅町は、直通で病院へ行く手段がない

シャトルバスの利用実態や現在及び将来の病院利用者のニーズを把握し、広域運行（田原本町以外への接続）の実現可能性を探る

→ニーズや実現可能性が明らかになれば、実証運行に向けて前向きに検討

●今年度の事業内容及び事業結果

☑当事業に係る 広域検討委員会を4町及び国保中央病院担当課で組織し、委員会を5回開催

開催日	協議内容
第1回 (令和2年6月3日)	・今年度スケジュールについて ・業務委託に係る事業者選定について ・広域検討委員会設置要綱について
第2回 (令和2年8月17日)	・当事業に係るアンケートの実施時期及び方法について ・今後のスケジュールについて
第3回 (令和2年12月25日)	・各種アンケート結果の概要共有 ・シャトルバスの広域運行実現に向けたルートの検討
第4回 (令和3年1月22日)	・運行事業者との協議結果及び現行シャトルバス運行経費等について ・シャトルバスの広域運行に係るルート及びダイヤについて
第5回 (令和3年3月3日)	・シャトルバスの広域運行に係るルート及びダイヤの修正について ・シャトルバスの広域運行に係る実証運行のあり方について ・今年度事業の成果品（運行再編計画）について

☑利用者ニーズ把握に係るアンケート調査の実施（令和2年10月～11月）

- ・病院利用者アンケート（回答者数：392）
- ・4町住民アンケート（回答者数：721）
- ・無料送迎シャトルバス利用者アンケート（回答者数：116）
- ・広陵元気号利用者アンケート（回答者数：10）

<アンケート調査の結果わかったこと>（アンケート結果の概要は資料5-2のとおり）

- ・田原本町、三宅町及び川西町では国保中央病院、広陵町では大和高田市立病院の利用が多い
- ・総合病院の選択理由には、「自宅から近いから」の割合が最も多く、アクセス利便性の良さは重要
- ・無料送迎シャトルバスを改善した場合のバスの利用意向は高い
- シャトルバスの広域運行に対するニーズはある
- ・乗車に必要な条件は、各町から30分以内で行けること、病院に行きたい時間（8～9時台）、病院から帰りたい時間帯（11時台）に対応していること

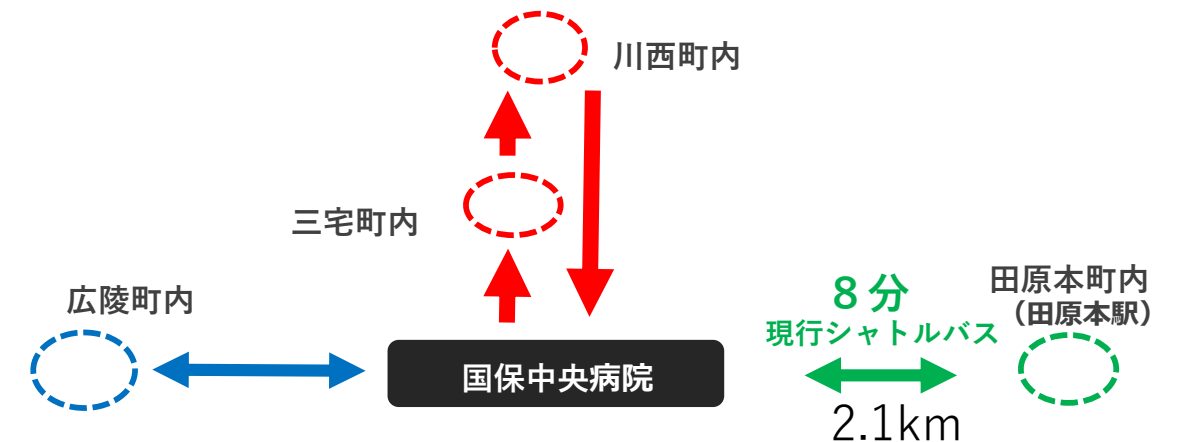
☑シャトルバス広域運行のあり方についての検討

<広域検討委員会及び運行事業者との協議により共通認識したこと>

- ・シャトルバスについて、現在の運行体系（バス1台、運転手2名体制）は変えることができない
- ・各町も病院も、広域運行による大きな費用負担は新たにできない
- ・運転手の負担軽減の観点から、1日当たりの走行時間・距離は極端に増やせない
- ・シャトルバスの広域運行をする場合にも、既存利用者の利便性を極力維持しなければならない
- 現行ルートの運行ダイヤに大きな空白時間（便の間は40分が目安）を作らない形にすることが必要

現行シャトルバスのうち、1日2便（8～9時台、10～11時台）を広域運行（川西町・三宅町・広陵町）に充てることが計画上有効という結論に至る

<シャトルバスの広域運行をした場合のイメージ図>



当該有効と考えられる運行形態について、今年度の成果品（運行再編計画案）にとりまとめる

国保中央病院の幹部会議（R3.3.31）により承認されれば、運行再編計画案に基づき、シャトルバスを広域化した実証運行に向け、検討を実施していく予定